

新キャンパス建物工事風景

薬用植物の紹介

イヌサフラン (*Colchicum autumnale* L.)

(ユリ科)

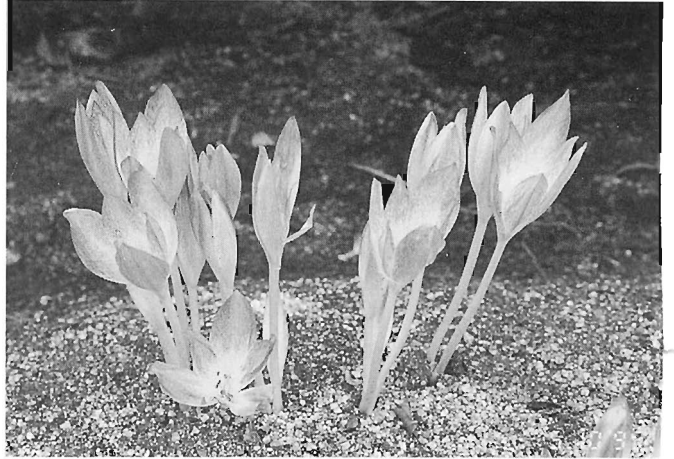
イヌは否を意味し、サフラン *Crocus sativus* L. (アヤメ科) に似ているが、違うことを物語っている。ユリ科とアヤメ科は近縁で形態などが似ている。多くの草本植物が冬に休眠するのに、イヌサフランとサフランは夏に休眠し、秋に地中の鱗茎から花筒を伸ばして淡紅色～淡紫色の花を咲かせる。両者の違いは6枚の花被片がイヌサフランでは長楕円形で大きいのに対し、サフランでは楕円形で小さく、紫色の脈が目立つこと。雄蕊がイヌサフランは6本で、サフランは3本である。前者の葉は春に生え、先端部が広く、根元が細長い。後者では花期に線形葉が生えはじめ、冬の寒さに耐えて伸び、春には多数が生え繁る。イヌサフランは子房が花期には鱗茎内にあり、春に花托が伸び、果柄となって先端に果実を結ぶ。

サフランは南ヨーロッパから小アジアに生え、わが国には文久末年(1864年)に薬用の目的で渡来した。イヌサフランはヨーロッパから北アフリカに生え、薬用や園芸用の目的で明治初年に渡来した。春咲きのサフランは、ハナサフラン(クロカス) *Crocus vernus* L. と呼ばれ、数多くの栽培品種がある。夏から秋に花が咲くサフランホドキ *Zephyranthes carinata* Herb. (ヒガンバナ科) は中米原産で、明治7年(1877年)に渡来し、一時期サフランと同じ植物と考えられていたと聞く。

痛風はエジプトのエーベルス・パピルス(BC 1500)時代から知られているが、その激痛を抑える薬としてイヌサフランが知られたのは、17世紀中頃、ヨーロッパでのことである。鱗茎に含まれる薬効本体のコルヒチンは含量が変動しやすく、時には中毒を起こしたと考えられるが、19世紀中頃に種子ではばらつきが少ないことが分かり、痛風の痛み止め薬は一般化した。そのワインチンキが広く愛用されたと伝えられている。

コルヒチンは植物細胞に対しては、紡錘糸の形成を阻害し、細胞分裂を妨げる。染色体分裂は阻害しないので、染色体は倍加され、 $3n$ 、 $4n$ 、 $8n$ などの細胞ができる。倍数加された植物は果実が大形化するので、リンゴやナシなどの品種改良に応用される。また、種子を作らないことが多いので、種なしスイカなどに応用される。

コルヒチンは動物細胞には毒性が強く、細胞分裂



を抑え、細胞死も起こす。その毒物が痛風の痛み止めに、1回1 mg、1日8 mgを限度に投与される。正確な作用機序が解明されていないが、尿酸結晶を貪食した多核白血球が自己融解し、細胞内容物が周辺に広がって起こる痛風のことを考えると、コルヒチンがその貪食を抑えることによって、痛みを止めることは確かである。細胞毒性を示す濃度より低濃度のコルヒチンが痛風の痛み発作を抑えることや、毒性の弱い関連化合物が同様に効果を示すことなどから、低濃度のコルヒチンは尿酸結晶の存在を白血球に伝える伝達系を阻害するのかも知れない。

痛風は余病率が高く、成人病予防の点からも、根源的な治療法が求められる。食事療法や、尿酸生成を抑える薬(毒性には注意)や尿酸排泄を促す薬が使われる。尿酸の結晶化を抑える工夫も試みられている。コルヒチンは痛風の激痛を止めるための緊急避難用の薬物である。

多くの薬物が細胞膜に作用するのにに対し、コルヒチンは細胞内に入って作用する。細胞内の現象を解明するのに、モデル化合物として使われ始めている。細胞内で作用する抗癌薬のリード化合物として、あるいはベーチット病に対する効果も注目されている。細胞分裂期の生化学研究などにも利用されている。イヌサフランは、痛風予防の重要性を思い起こさせ、これからの薬開発をリードする植物でもある。中庭で秋の日差しを浴びて咲く様子を眺めながら、イヌサフランと人との、これまでの、そしてこれからの長いつき合いを思った。

(文 教授 草野源次郎)

目 次

薬用植物の紹介	草野源次郎
ご挨拶—母校に帰って—	学 長 岡 源 郎… 2
学生部長就任にあたって	学 生 部 長 望 月 伸三郎… 3
新キャンパスの建設状況その後	栗 原 拓 史… 4
高槻新キャンパスへの移転委員会の発足と移転計画について	森 逸 男… 5
新R I施設について	6
ネットワークの設置について	6
第2回市民講座を終えて	掛 見 正 郎… 7
第13回公開教育講座を終えて	掛 見 正 郎… 8
海外出張報告	坂 田 勝 治… 10
平成7年度就職状況中間報告	就 職 部 長 稲 森 善 彦… 12
○平成6年度学校法人決算報告	事 務 局 長 河 野 光 次… 14
第30回大薬祭を顧みて	学 生 部 長 望 月 伸三郎… 15
教務課だより	18
関西薬連・全薬大会結果報告	20
学生課だより	21
保健室だより	22
経理課だより	23
○人事異動／海外出張／研究助成／学位授与	24
図書館だより	25
○各部・委員会・委員	26
○平成7年度文部省科学研究費補助金採択状況	28
平成8年度入学試験概要（全日程）	28
○後期行事予定	29



ご挨拶 —母校に帰って—

学 長 岡 源 郎

このたび10月1日付で、母校の学長に就任いたしました。理屈抜きで感動しています。同時にありきたりの言葉ですが、責任の重大さをひしひしと感じています。

私は昭和29年本学を卒業し、引続き阪大薬学部大学院で薬理学を専攻し、その後阪大医学部で15年間、徳島大医学部で20年間、教育、研究に励んでまいりました。このような経歴は、私の一つの財産だと思っています。この財産をこれからの母校のさらなる発展に生かしていきたいと思っています。

薬学はご承知の通り総合科学です。他の学部にはない薬学独自の総合科学です。“創薬”このすばらしいサイエンスは、薬学が担っている大きな使命の一つです。最近では、バイオテクノロジーの導入で生体成分からも新薬が生まれるようになってきました。そして、薬と生体との相互作用の研究から薬学独自の生物科学が生まれてきます。薬学は“ライフサイエンス”の中心になる学問といえましょう。

最近では、薬学をとりまく環境が大きく様変わりし、社会のニーズに応じた医療薬学の必要性が叫ばれています。医療の現場では、薬は「病」という敵と戦う武器です。薬という武器なしに治療が行われている臨床各科はありません。私たち薬のスペシャリストは、薬という武器の性能、きれ味、危険性など正しく把握していなければなりません。医療の現場では、医師、看護婦、患者たちとのコミュニケーションが何よりも大切です。そして、その場で正しく判断し、ベストな選択ができる薬剤師でなければなりません。そこから医療人としての“医の倫理”が生まれてきます。まさに薬学は人間科学“ヒュー

マンサイエンス”でもあります。薬学の進歩なくして医学の進歩はありません。他方、環境衛生の分野にも薬学は大きな役割を果たしています。食品、化粧品など医薬部外品にも薬学の研究成果が生かされています。このように観てまいりますと、薬学ほど広範な領域にまたがる社会にとって必要不可欠なサイエンスはないといっても過言ではありません。薬学の教育、研究の重要性をあらためて痛感します。

幸い本学は、皆さまの並々ならぬ努力により教育、研究設備も整い、教育、研究、いずれの面をとってもすばらしい発展を遂げています。薬剤師国家試験合格率のトップ、一流ジャーナル誌への論文発表数のトップクラスなどその良い例かと思えます。これからもそれぞれの専門分野で競い合って頂き、若い芽を育てて頂きたいと願っています。そして同時に、本学の存続とさらなる発展のためには、薬学のこれからの動向を的確に見極め、未来のシナリオを常々皆さまとともに話し合い、智恵を出し合っていかなければならないと思っています。

“クールな頭”と“ワームな心”でもって、怖めず臆せず多くの課題に取り組んでいきたいものです。幸い皆さまの努力で来春には新しい高槻キャンパスに移ることになりました。これを機に、本学を21世紀に向けフォローの風が吹く、世界に伸びる誇れる薬大に育てようではありませんか。そして国際的視野に立ち活躍できる人材を育成しようではありませんか。

最後に、しばらくは、なれないことも多いと思います。よろしく御指導、御援助下さいますようお願い申し上げます。



学生部長就任にあたって

学生部長

教授 望 月 伸 三 郎

平成7年4月25日付で、またまた学生部長に就任することになりました。またまたというのは、今迄に学生部長と（学生部長事務取扱）の仕事をしていただきました。どちらの時も平穩のうちに大過なく全うすることができました。

今回は大学全体の移転という大事業に直面し、移転後の新学舎でのスムーズな運営を果たすという大任を負うことになりました。

本学が今の松原市に来たのは63年前です。この間には、第二次世界大戦、学制改革、戦後の復興と繁栄はベビーブームを呼び、経済の隆盛と共に高学歴志向の波に乗って大学の存在は輝いていました。

ドイツの統一、冷戦の終止符、ソ連邦の崩壊と世界の状況は目まぐるしい変化と、技術革新による文明の進展には戸惑うばかりです。

1.53ショックと話題になったのは5年ほど前です。今では1.46とも1.45とも言われる特殊出生率（一人の女性が生涯に生む子供の数）は2.1で平衡状態と言われます。大学受験の高校生人口は、これから何十年にわたって減少し続けるでしょう。

そうした情勢のなかで日本の教育は学制改革以来半世紀ぶりに大学の大綱化が示され、新しい教育を目指して単位の見直し、カリキュラムの大幅な改革が求められ、薬学も今迄の基礎薬学から医療薬学へと時代の流れは大学の存在と評価が問われる今日です。それゆえ今、各大学とも21世紀に向かってのサバイバルに必死な姿があります。

63年前に想像もできない変化ですが、教育は未来を無視することは出来ません。過去においてのこれだけの変化は、情報化と技術革新の進んでいる現代から未来へは更に大きな変化が予測されるところです。

人と変化（時代の流れ）は、①. 時代をつくる人、②. 時代の中で生きる人、③. 時代について行けない人に分かれます。①は研究を重ねて行く人で②は常に良く勉強する人です。③のついて行けない人は今の社会では「窓際族」と呼ばれます。

半世紀前までは経験を重ねることで生きてゆけましたが、今の時代は生きて経験を重ねるだけでは③になってしまいます。積極的に活動的に行動することが要求されます。

本学の学生は、与えられた課題は無難にこなすが勉学に運動に積極的、活動的に行動しているかと言うと残念ながら「？」です。

今の時代は常に課題を求め、自分で課題をつくってチャレンジして行くことが大切です。

本学の学生諸君は、与えられた事をやる時は良い成績ですが、自分から課題を求めて、体とか頭を鍛えることを敬遠しがちです。また、そのことで問題が長引くとそれに立ち向かう気力というか、スタミナがありません。これは、私の専門の立場からみますと基礎体力の不足です。大学生活を基礎造りの場として、頭を鍛え体力の充実を計る生活習慣を付けてください。

今の時代は、流れが速く安易なアルバイト生活に満足していると、社会に出て10年もすれば「窓際族」となってしまいます。アルバイトに使う時間を頭の鍛練と体力の養成に費やしてください。この4年間の努力は、卒後の60年を快適な生活にさせてくれることでしょう。時代の変化を見通す人生80年の生活設計が大切です。

目先にとらわれない生き方を語り合い、共に学んで行きたいと思っています。

新キャンパスの建設状況その後

建設委員会委員長

教授 栗原拓史

昨年12月15日に現地で地鎮祭が挙行われて以来、早や1年近くが経過しようとしています。現地では来春2月の竣工に向け、順調に工事が進んでおり、11月末時点の進捗率は約80%で、ほぼ予定通りのようです。今回は、それぞれの建屋について写真を参考にしながら外装仕様の概略と進捗状況について説明を加えて見ることにします。

本部・図書館棟：外壁の正面は1，2階の柱型が天然石（御影石）、腰下がモザイクタイル(4.5×4.5)、裏面が吹付タイルで仕上がり、色はシックなアイボリーで全ての建物がこの色で統一されることとなります。3，4階の外装ガラスは熱線吸収ガラス（ガラス組成の中にニッケル、鉄、コバルトなどの金属成分を加えて着色されたガラスで、本工事はグレー系）で、透明ガラスに比べ日射熱をより多く吸収するため冷房負荷の軽減につながると同時に建物外観にデザイン効果を与え、昼間は室内が見通しにくく、室内からは自然のままに外を眺めることが出来ます。屋根囲いはブロンズ系のルーバー仕上げで、これも全ての建物で統一されています。現在外装タイル張り20%完了、ルーバー取付完了、1階玄関内装大理石張り進行中です。（表紙写真）

研究棟：外壁は西面（山側）のみを除き全面モザイクタイル（4.5×4.5）張り、西面が吹付タイルで、約20%程度完了しています。屋根囲いルーバー、窓枠アルミサッシ取付完了、内装は壁、天井ボード張

り進行中といったところです。（写真1）

講義・実習棟：外壁4面全てモザイクタイル張りで、目下50%の進捗率です。外装ガラスは1階玄関ホール吹き抜け部のみ熱線吸収ガラスになります。ルーバー取付完了など、最も進んでいます。（写真2）

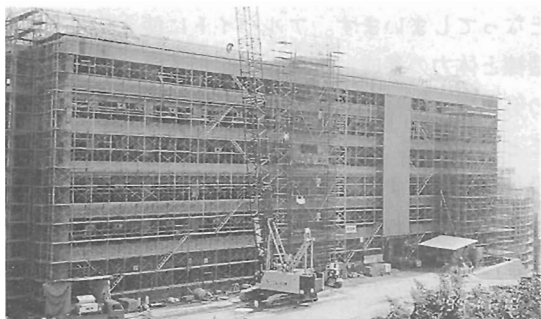
大会館：全面吹付タイル、外装ガラスは一般の型板透明ガラスが使用されます。現在、外装は吹付タイル下地調整中ですが、ルーバー、アルミサッシの取付完了、内装は間仕切施工中のようです。（写真3）

体育館：屋根、外壁（全面吹付タイル）とも完了、1階アリーナ壁、2階柔道場の床などが施工中です。（写真4）

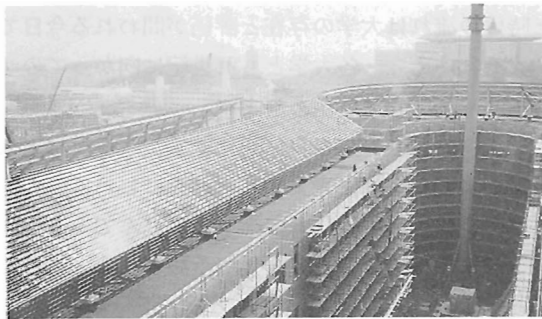
学生クラブハウス：壁面全面吹付タイル完了、屋根カラー鉄板、折板付き完了。内装は間仕切り完了、壁ペンキ塗装中です。

その他、外構工事としてグラウンド階段、駐車場、校内道路などにまつわる工事も順調に進んでいます。12月に入れば植栽工事も始まります。先日、静岡県焼津のダイルトン工場を視察してきましたが、本学の特注実験家具も含め予定通り製作作業が進んでおり、12月中旬より出来上がった実験台から順次搬入が始まるようです。

（11月22日 記）



（写真1）



（写真2）

高槻新キャンパスへの

移転委員会の発足と移転計画について

移転委員会委員長

教授 森 逸 男

平成8年高槻学舎の開校を目標に、今、着々と新キャンパスの建設工事が進んでおります。この新学舎の完成を待ち、平成8年4月開校を目指して移転委員会の設立が唱えられ、先ず拡大教授会において委員長の選出(森)が行われました。ついで同じく拡大教授会より委員4名を選出(玄番, 掛見, 千熊, 木村), さらに事務局長, 施設および庶務課長の3名(河野, 森本, 伊藤)を加えた計8名の構成メンバーで高槻新キャンパスへの移転委員会が平成7年5月29日に発足致しました。

本移転委員会は、直ちに移転業者選定の公募入札を行い、入札参加移転業者5社より1社を選び本学の移転業務を委任することに決定しました。ついでこの移転関連業者を交えて、松原より高槻新キャンパスへの平成8年3月末日までの移転完了を目標とする移転スケジュールなどの検討を重ねてまいりました。その概略(移転予定日, 移転方法など)は、先の岡源郎新学長を迎えた10月2日(月)に第一回移転説明会として全教職員に公表させて頂きました。何分、移転業務を予定する3月は、年度末主要行事の進級, 卒業査定, 卒業式および学位授与式(3月9日(土)), さらに薬剤師国家試験(3月28日~29日)などの主要行事と重複する繁忙な時に当たります。

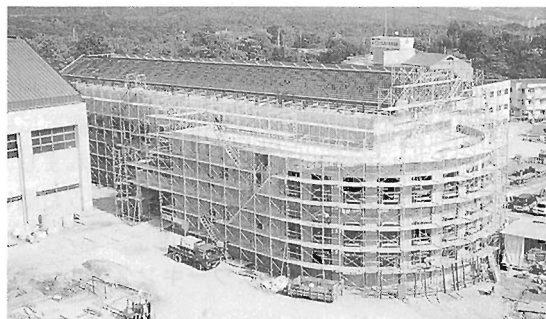
本移転委員会でも慎重審議を重ねた上、この時期での本学移転業務を先ず中央施設および中央機器, 図書の移転より始め、ついで各研究室, 講義・実習

棟および管理棟の移転を、その後に学生関連施設の移転を予定する移転計画を立案致しました—3月1日(金)~6日(水)にまたがって中央施設のMAS, NMR, 電顕などの移転, 7日(木)~8日(金)に管理・図書館棟の図書の移転, 研究棟地階, 1階の共同機器施設の搬入, 3月10日(日)より約10日間の予定で各研究室, 実習室などより新キャンパス研究棟, 講義・実習棟への搬出搬入, 次いで、これら機器施設などの移転完了を待って管理棟, 学生会館およびクラブハウス棟などの学生関連施設の移転を3月22日(金)~27日(水)に計画しています。

一応、主移転の完了を3月27日(水)としていますが、3月末に薬剤師国家試験が松原学舎で行われることより、全面移転完了は3月一杯になろうかと思われます。

何れにしましても、松原より高槻新キャンパスへの移転は開校以来の難事業であり、全教職員および学生諸君はもとより、松原, 高槻両市の皆様方, 同窓, 薬学関連の皆様方の御協力, 御援助, 御指導なしには達成出来ません。一層の御協力, 御援助, 御鞭撻を御願ひする次第です。

なお、本学移転の手始めとして、移転本部を同窓会館1階に11月1日(水)よりオープン、また移転が切迫して参ります1月に、再度移転説明会を予定しておりますので、皆様方の一層の御協力を御願ひする次第です。



(写真3)

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



(写真4)

新R I施設について

高槻学舎での新R I施設は研究棟地下1階に配置されている。放射線使用施設としての総面積は排気および排水設備を除いて約510m²であり、5つの非密封R I実験室と共同機器室、測定室および暗室、さらに安全管理施設としての管理室、更衣室、汚染検査室、管理用処理室、廃棄作業室(有機廃液焼却炉)、R I貯蔵室およびR I廃棄物保管室から構成されている。また、新学舎においても講義実習棟の3階に約69m²のR I実習室が設けられた。それぞれの給排気設備の主要構成部は各棟の屋上にまとめられ、排水設備は研究棟と講義実習棟との間に研究および実習の両施設共通の廃水貯留槽(容量15m³)が3基設けられる予定である。

現在、建設現状に合せた構造設備の図面作成と空間線量、空気中および水中放射能濃度等の計算書の作成を行い、H. 8/3/1付けで科学技術庁の許可となるよう申請書を提出中である。

高槻新学舎でのR I施設の使用(予定)は、次のとおりである。

H. 8/1/末～ 平成8年度放射線業務従事者の登録

H. 8/4/10ごろ 血液検査・健康診断

H. 8/4/中旬 教育訓練

H. 8/4/下旬 新R I施設の使用開始

新学舎での講義実習開始に合せてR I施設(名称を従来通りの「R I施設」か「R Iセンター」とするか、安全管理組織等と絡めて委員会で検討中)を使用できるように努力している。しかし、建設工事の進行、許可申請書の作成、松原学舎の除染工事等との兼ね合いもあり、また、並行して学内の講義、実習他の行事を限られたメンバーでこなさざるを得ない状況であるので、ご理解をお願いしたい。

なお、ここ数年来、本学でのR I利用者および実験申込みは増え続けている。しかし、新R I施設の規模は松原学舎のそれに比べて約2倍の面積となり、現状よりはゆったりと実験研究に励んで頂けるものと期待している。

(記 助教授 木村捷二郎)

ネットワークの設置について

インターネットはパソコンやワークステーションなどのコンピューター間で、書類・画像・音声などをやりとりできる計算器同士の電話のようなものです。しかも、そのラインは国際電話と同じように、海外にも通じており、通話できる相手(コンピューター)は700万台とも800万台ともいわれています。通信には共通の規格が用いられているので、国際電話で言葉が通じないような状況はなく、どの国のどんなメーカーのコンピューターであってもデータの送受信が可能です。

その普及速度はめざましく、ミャンマー(ビルマ)と北朝鮮を除く世界の国々に回線が広がっています。欧米に比べ異常なほど多くの規制のある日本では、このような通信網の普及は著しく遅れておりますが、世界中で急速に普及しつつあるインターネットを利用したビジネスチャンスに脚光があたり、マルチメディアという号令のもと様々な団体や法人が参入しつつある状況にあります。

この様にパソコンとネットワークの急激な普及と、利用形態の多様化が進む状況において、ネットワークは電話などと同じ基本的なインフラであるとネットワークワーキンググループでは考えています。特に教育・研究の場としての情報発信基地である大学にとってはその意味は非常に大きいと考えられます。これまでも、何度か公聴会を開催し、松原キャンパスと高槻キャンパスにおけるネットワークのあり方を大学職員の皆様と検討して参りました。松原では移転直前ということもあり、全学的なラインはありませんが、情報処理室を中心に一部の施設・研究室が利用できる状況にあり、海外・国内のアクセスポイントからのダウンロード、文献検索、センター入試を利用した入試などの利用実績も徐々に積み重ねられています。公聴会の結果、特に高槻では全ての研究施設と教育施設にネットワークのラインを引くことが目標とされました。インターネットの利用が、ダウンサイジングについて全ての情報機器に変革をもたらすと予想される中、皆様におかれましてもこのような環境の実現に御協力頂けるようお願いいたします。

(記 ネットワークワーキンググループ)

第2回市民講座

「健康とくすり」を終えて

市民講座委員会委員長

教授 掛見正一郎

本年度の市民講座は、「健康とくすり」をテーマに、去る6月3日（土）午後1時30分から、松原市文化会館ホールで開催いたしました。この市民講座は、本学創立90周年記念行事の一環として、昨年設立されたもので、本年はその第2回目にあたります。

今回は特に、身体および精神の両面にわたって「健康に生きるための知識とその方法」に重点を置き、下記の演題で、関西医科大学教授齋藤正己先生と、本学助教授馬場きみ江先生に、ご講演いただきました。

「健やかに生きるための生活の知恵 ……健康野菜アシタバの効用……」

大阪薬科大学助教授 生薬学講座 馬場きみ江

「痴呆（ぼけ）にきく薬をめぐって ……くすりとの上手なつきあいかた……」

関西医科大学教授 精神神経科学講座 齋藤 正己

また、昨年に引き続き大阪府下の約30名の薬剤師による「薬の相談コーナー」を併設し、日頃薬に関する疑問点、悩みごとなどの相談に答えることに致しました。

当日は生憎の雨天でしたが、薬用植物、痴呆の治療と予防という一般市民にとっては非常に関心の高い内容だったこともあり、参加者は約250名と予想を超える盛況でした。参加された年齢層も20歳～70歳まで幅広く、男女比もほぼ同数、極めて熱心に、メモを取って聴講しておられました。ご承知の通り市民講座は、あくまでも一般市民を対象としておりますので、できる限りわかりやすくご講演戴くことになっていきます。両先生とも極めて熱心に、しかも丁寧にお話をされ、参加者の評判も非常に高かったと聞いております。両先生にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、大阪薬科大学の前身である帝国女子薬学専門学校が、この松原の地に移転したのは1932年のことであり、以来63年間に亘り、私たちは多くの人材を世に送りだして参りました。しかしこれには、地域住民あるいは地域社会からの、有形無形の支援があったからこそ成り立ってきたことを、私たちは忘れてはならないと思います。今「開かれた大学」、「地域社会に貢献できる大学」の確立が望まれてい

ます。これは、「大学がその地域に存在すること自体意味がある」という時代は終わり、「大学が積極的に地域に働きかけ、貢献する必要がある」ことを示しています。大阪薬科大学は、医療人たる薬剤師を養成する教育機関であり、これら教育・研究の成果を通して、少なくとも「地域医療」へ還元する責務があると思われれます。市民講座はこれを行う絶好の機会として、今後とも継続して開催してゆく必要があると考えております。教職員の方々の、より一層のご協力をお願い申し上げます。

ご承知の通り、来年4月には高槻新キャンパスに移転します。来年度の第3回市民講座は、移転を記念して6月に、新キャンパスの大講義室で開催する予定をしております。また、同時に学内施設の見学会も企画いたしております。今後の市民講座に関してご意見、ご企画等がございましたらお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、本市民講座開催にあたりご協力いただきました本学教職員、共催していただきました大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、松原市薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に深謝いたします。また、後援いただきました松原市、大阪府に感謝申し上げます。

第13回公開教育講座

を終えて

公開教育講座委員会委員長
教授 掛 見 正 郎

第13回公開教育講座は10月14日、21日、28日の3日間、本学34教室において「新しい医療とこれからの薬剤師(4)」というテーマで開催されました。第10回から続けているこのテーマは、医療における薬の役割」を根本から見直し、その中で薬剤師は今後ど

う関わって行くべきかを共に考えようとするものです。本年は下記の通り、国内外の医・薬学の分野で活躍されている6人の先生に講演をお願い致しました。

10月14日（土）

「医療薬学教育の行方と薬剤師国家試験」 神戸大学教授 医学部附属病院薬剤部長 奥村 勝彦

「点眼剤 —最近の進歩—」 近畿大学医学部教授 眼科学 大鳥 利文

10月21日（土）

「高血圧治療薬の最近の進歩とその将来 —血管作動性ホルモンを中心に—」

大阪薬科大学助教授 薬理学講座 松村 靖夫

「医薬品の安全かつ適正な使用と患者への情報提供」 阪南中央病院内科科長 浜 六郎

10月28日（土）

「現代医療と漢方療法」 富山医科薬科大学教授 医学部和漢診療部 寺沢 捷年

「点眼剤 —最近の進歩—」 大阪市立大学教授 医学部長 門奈 丈之

本年は、3日間とも天候にも恵まれ、非常に多くの参加者があり、一時座席の確保が困難なほど、満員の盛況でした。講師の先生方も極めて熱心に講演され、また参加者も積極的に質問されるなど、「新しい時代の薬剤師像」を垣間みるような活気のある公開教育講座であったと思っています。これも、座長の先生方、あるいは広報活動その他でご協力を

戴きました本学教職員の方々、会場でスライド係、会場係など裏方として働いて戴きました大学院生4年次生など、多くの方々のご支援の賜と、深く感謝いたしております。

冒頭で述べました本年の公開教育講座のテーマ、「新しい医療とこれからの薬剤師」は、当初からの予定通り今年が最終回となります。連続4回の開講

公開教育講座	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
開催年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年
開催日数(日)	6	5	4	4	4	4	4
有料参加者数	280	120	86	85	57	59	36
延べ参加者数	—	—	—	—	—	—	—
修了証発行枚数	198	100	68	58	19	43	27

公開教育講座	8回	9回	10回	11回	12回	13回	
開催年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	
開催日数(日)	4	3	3	3	3	3	
有料参加者数	44	34	81	210	323	292	
延べ参加者数	104	82	184	503	774	767	
修了証発行枚数	33	30	42	125	180	208	

によって所期の目的は何とか達成できたのではないかと考えております。ご承知の通り、来年度は高槻新キャンパスでの開催(1996年10月12日、19日、26日)が決定しております。私たちはこれを機に、委員会を一新し、新しいテーマでの開催を考えております。この4年間、至らぬところが多々あったとは存じますが、私たち公開教育講座委員会をご支援戴きまして誠に有り難うございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、ここ数年間本学の公開教育講座への参加者数は年々増加し、その傾向は定着しつつあるように思われます。因みに、本年の有料参加者数は292名に達し、3日間延べ参加者数は767名、修了証発行枚数208枚でした。これは、第9回公開教育講座の有料参加者数が、たったの34名であったことを考えれば、まさに隔世の感があります。次表は、第1回から第13回までの公開教育講座有料参加者数の移り変わりを示したものです。

私たちの公開教育講座委員会が発足した1992年は、ちょうど医療法の抜本的な改正が行われた年であり、わが国の薬剤師の「生涯教育」問題が急浮上してきた年でもあります。私たちは、本学の公開教育講座を「薬剤師の卒後教育」に活用することをいち早く

決定し、全国に先駆けて(財)日本薬剤師研修センターとの共催を取り付け、また(社)大阪府薬剤師会の後援を得ることが出来ました。このことが、今日の参加者増に結びついたと思っております。今後も、公開教育講座を、大学院と並び本学の卒後教育の根幹をなすものとして位置付け、大切に育ててゆく必要があると私たちは思っております。

終わりに臨み、本年も共催して戴きました(財)日本薬剤師研修センター、後援戴きました(社)大阪府薬剤師会、ならびに開催にご協力いただきました大阪府病院薬剤師会、京都府病院薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に深謝いたします。



多文化社会—ロサンゼルス管見

教授（英語） 坂田 勝 治

今夏8月初めから9月中旬にかけて、Los AngelesのWestwoodに在るカリフォルニア大学ロサンゼルス校（University of California, Los Angeles—通称UCLA）に6週間滞在し、“UCLA Summer Session 1995”に出席する機会を与えられた。久しぶりにアメリカの大学の活気ある雰囲気接することができ、触発されるところが大であった。UCLAに来たのは今回で三度目であるが、いつ来ても得る所の実に多い大学である。知人のProf. Anderson夫妻の公私にわたる親切な配慮は別としても、大学図書館を初め諸施設を十分に利用させてもらい、感謝の念を禁じ得ない。特にこの大学が「開かれた大学」として多彩な形態で勉強できる環境を整えているのは、羨ましい限りである。

さて、今回の出張報告を書くように、との御下命であるが、既に6年前の同じこのUCLAでの研修の折に、UCLAに関する詳しい報告書をこの大学公報に書いている（『大阪薬科大学報』No. 21, 1989. 12. 15）。その中で“Summer Session”の内容、UCLAの学生生活、学生気質、大学の施設、授業内容、教務関係、特に「単位取得の厳しさ」等について詳しく報告したので、今回は類似の記事は避けるべきだと思われる。過去二回はキャンパス内の便利な大学寮で生活させてもらったが、今回は大学構内北端の閑静な場所に建つ「Guest House」に5日間泊らせてもらった以外は、アパート住いで通した。それで今回の報告は、大学という温室から一步外へ出て、ロサンゼルス（LA）の市民生活で今夏目立った社会現象を箇条書き的に記してみようと思う。

①多文化主義（Multiculturalism）

LA生活も三度目となれば少しは視野も広がり、理解も深まって然るべきなのだが、LAの広さ、多様さを考えれば「未だ道遠し」の感である。確かに少しは眼も慣れ生活風習も解し始めるが、一步踏み込んで少しでも内側に進入すれば途端に様相が一変し、複雑性に收拾のつかぬ思いに駆られ、軽卒な妄言を許されぬ現実の厳しさを思い知らされる。何しろ「多様性」から成り立つU.S.A.の中でも、その権化のようなLAだから、我等のLA理解も表面的、



Powelle Library, UCLA

部分的にならざるを得ない。LAはまさに「多様性」を personification して絵に描いたような都市だから、全てが『いろいろある』。人種、信条、価値観、制度しかり、風俗、風習、風土、生活の安全度、それに「言語」さえも多様で『いろいろある』。狭い視野や経験のみで一般化して断定するのは、「一面的」の誇りを免れない。

多様な人々が多様な生活スタイルで、多様な存在を展開している。多様な生き方のそれぞれに存在理由があり、根拠があり、それぞれが正当性を持っている。その多様性を認めることこそが社会生活の出発点である。このことは比較的単一社会の日本人の思考方法に参考となるであろうか。LAはU.S.A.の中でも特に人種構成が多岐に亘っており、その多様性から生じる「活力」がLAの生命であると同時に、そこから生じる難しい「問題点」を抱えていることがLAの weak point でもある。LAの各大学でもそのカリキュラムに“Multiculturalism”を如何に展開するべきか、模索が続いている。

②シンプソン裁判—「世紀の評決」

LAの人種問題の複雑さを象徴するのが、この一年間アメリカ中を大論争の過熱状態にした「O.J. シンプソン裁判」である。「世紀の裁判」（Trial of the Century）と称されるこの事件は、報道の過熱ぶりで全世界に有名になった。日本では考えられないことだが、裁判所の法廷内にTVカメラが持ち込



“Rose Bowl” at Pasadena

まれ、今年1月14日の検察の冒頭陳述から9月29日の結審までの9カ月間、被告・弁護側と検察側が激しく対決する様子が連日生々しく放映されたのである。裁判官の一言一句もTV画面上に映し出され、唯一映されなかったのは陪審員の顔のみである。日本でも衆知の事件だが、当地LAの人々の興奮ぶり、過熱報道ぶりは異常なほどで、大学内でも、知人との会話の中でも必ずこの事が話題になった。特に裁判官が日系三世のLance Ito判事だったので、その裁判指揮の是非についても『もっと強引に指揮すべきだ』とか、『あれでよいのだ。慎重で丁寧なやり方だ』と意見が分かれ、私も返答に困った。

この裁判の背景は複雑である。1991年に黒人のロドニー・キング氏に対する白人警官の殴打事件があり、そのロス市警4人に対する無罪評決が白人が大多数を占める陪審員によってなされたことで、1992年春にロス暴動が起きた。しかも今回の被告がアメリカン・フットボールの往年のスーパー・スターの黒人のO.J. Simpsonであり、彼がその財力によって編成した超一流の弁護士集団“Dream Team”が強力な弁護活動を展開した。一方検察側も総力を挙げて取組み、ロス検察史上で最大の裁判費用を捻出したとか。さらに被害者は白人で、事件の重要な証言者がヒスパニック系、事件現場で証拠品を押収した刑事が白人の人種差別主義者、血痕のDNA鑑定をしたのが中国系の世界的な権威、そして裁判官が日系人である。そして黒人のCochranや白人のBaileyやShapiro各弁護士が、検察の女性の白人検事Clarkや黒人のDarden検事と人種問題等について激論を交す。ドラマの結論は9カ月間ホテルに缶詰になった12人の陪審員（黒人9、白人2、ヒスパニック系1名）の下した無罪評決で幕を閉じた。しかしこの「世紀の評決」(The Verdict of the Century)の後も裁判所の外で論争が続いている。陪審員制度(Jury)そのものへの是非も含め、人種問題の難しさが論じ続けられる。

③野茂フィーバー

次は明るい話題で、例の野茂投手のL.A. Dodgers球団での活躍ぶり。日本でも衛星放送で実況放送をしており、各メディアの報道で先刻御承知のことであるが、LAに滞在しているとアメリカ人、特にLA市民の直接の反応がよく判る。野球、バスケット、アメリカン・フットボールが三大スポーツだが、いずれもホームグラウンドのチームに対する応援は熱狂的である。野茂投手もドジャーズの一員として活躍すれば、当然応援も過熱気味。町には「野茂グッズ」が溢れ、TVでも特に地元テレビ局では、“Nomo Special”が放映され、日本からは早速「野茂観戦ツアー」がやって来るらしい、と報じている。私自身の経験でも、野茂投板日であることを知らずにたまたまDowntownに行った時、日本人が多数、日系のホテルや“Onizuka Street”(チャレンジャー事故の日系宇宙飛行士を記念して命名された)一帯に集まっているのを見て驚いたことがある。

野球の事は別としても、野茂が単身で渡米し、この先どうなるかわからない状況で大リーグに挑戦し、遂に道を切り拓いた意志の強さは見事であると思われる。かって「気概」とか「大志」とか「青雲の志」という言葉があったが、現在ではもう「死語」になってしまったのかと思っていたが、野茂を見て久し振りにこれらを思い出した。更に古典調で言えば、『男子志を立てて郷関を出ず。学若し成らざるば死すとも還らじ。骨を埋むる何ぞ期せん墳墓の地。人間到る所青山あり』ということになるのであろうか。願わくば野茂現象が一過性でないことを祈るのみである。

④日本の経済大国化

やはり世界から見れば日本は「金持ち国」に見えるらしいが、国民としてはその様な実感はない。しかし通貨としての「円」が強くなったことは肌で感じられる。20数年前、初めてボストン北方の大学に行った時は、1ドル=360円の固定金利であり、数年後旅行した時は300円前後で大分得をしたと思った。それが7年前にワシントンD.C.の大学では150円前後で、非常に助かった。360円の半分以下である。つまり航空運賃から宿泊費から授業料に至るまで、何から何まで全て昔より経費が半分以下で済むのである。それが今夏は実に1ドルが85~100円であった。まさに全ての経費が昔より $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ で済んで隔世の感がある。外貨の持ち出し額も昔は500ドルしか許可されなかったが、今は自由である。海外旅行も日常茶飯事で、LAの英語学校には日本人学生(特に最近では中年女性)が多数学んでいる。LA経済界への日本の投資は盛んである。しかし、日本経済の底は浅いと聞く。思いやることなく、「堂々と、しかも謙虚に」ありたいものである。しかし、これがなかなか難しいことでもある。



平成7年度 就職状況中間報告

就職部長

教授 稲 森 善 彦

今年も「悲しいほどに超氷河期」と報道されていますように大変厳しい就職活動の幕明け（文部省の就職調査，毎日新聞，1995年11月5日）でした。4月10日（月）に慣例の就職ガイダンスを行いまして，4年次生（男子：131名，女子：219名）350名を対象に，本年度の就職に関する学内取り決めと就職スケジュールの説明を行いました。厳しい就職戦線を意識してか，全員緊張した表情で，メモを取り，熱心に聞き入ってくれました。厳しい目差，真剣な顔付はこれから始まる，いやすでに開始されていますセミナー等での厳しい就職活動をひしひしと肌で感じていますようで，心痛む思いが致しました。成績が良いにこした事はありませんが，いずれにしましても，礼儀正しく，明るい態度で面接に臨むように注意しました。

さらに，4月22日～28日まで，進路希望を目的と

した個人面談を行いました。約350名の学生諸君の相手をしましたので，正直疲れました。しかし，どの学生諸君の表情も真剣そのもので，かなりの学生諸君が企業のセミナーに参加もしくは資料請求を行っておる事も明らかになりました。年々，就職活動の開始が早くなり，これもバブル経済崩壊による不況を物語っていました。各企業とも出来る限り早く，より優秀な学生の採用内定を出したい様子がうかがえました。この結果，ほぼ把握出来ました希望進路は表Iの通りです。昨年と同様，大学院進学希望者は増加の傾向を示しました。この増加現象は不況と密接な関連性があると思われれます。薬業関連企業では，医薬情報担当者（MR）希望者は男女と共に昨年とはほぼ同数でした。在籍数も女子学生の方が多いですが，ここ数年，男子MR希望者よりも，女子MR希望者の方が圧倒的に多いのですが，本年度も例

表 I 平成7年度卒業予定者進路希望調査状況

（平成7年4月28日現在）

区 分	男子	%	女子	%	男女	%
薬業関連会社（営業）	27	21.2	32	14.6	59	16.9
（内勤）	7	5.2	40	18.3	47	13.4
薬 局・小 売	17	13.0	18	8.2	35	10.0
病 院・診 療 所	23	17.3	81	37.0	104	29.7
研 修 生	4	3.1	19	8.7	23	6.6
公 務 員	7	5.2	9	4.1	16	4.6
他 大 学 希 望	1	0.7	0	0.0	1	0.3
進 学（大学院）	41	31.2	14	6.3	55	15.6
就 職 し な い	0	0.0	1	0.5	1	0.3
そ の 他	4	3.1	5	2.3	9	2.6
合 計	131	100.0	219	100.0	350	100.0

外でなく、この傾向は年々増加すると思われます。狭き門と解りつつ、女子MR希望者の増加は一人でも多く内定をいただく事を祈っております。

10月下旬現在、企業、病院、薬局、小売、大学院研修生ならびに大学院試験等の採用内定および合格通知が届きつつあります。紙面の都合で、この時期での求人状況を削除させていただきますが、企業ならびに病院の求人件数および求人数が徐々に減少しております。一方、薬局（保険調剤薬局も含む）の求人件数および求人数は増加しています。次に内定状況（平成7年10月20日現在）を表Ⅱに示しました。薬業関連企業としましては、例年の如く、男子MR希望者はほぼ満足しました内定届けを得ています。しかしながら、女子MR希望者に関しましてはこれまた例年の如く、希望者32名に対し内定者16名と厳しい結果でした。研究・品質管理等の職種の内定者も昨年度とほぼ同数でございました。大学院合格者（他大学も含めて）は男子25名に二次試験合格者（本学）6名増加、女子10名に対して3名増加でした。以上同定者数は昨年度とほぼ同数ですが、昨年度（平成6年度）卒業生が233名であるのに対して、本年度の卒業予定者が350名を考え合わせますと、本年度はかなり厳しい就職戦線であると覚悟しなければなりません。

また先日（9月29日）に、3年次生への第1回就職ガイダンスを行いました。例年は12月上旬であり

ますが、3年次生の学生諸君からの強い要望によるものです。自主的な要望だけに、ほぼ全員に近い学生諸君が参加しました。今回は病院のOB、企業MRのOB、OGから、現状と見通しについてのお話をうかがいました。



厳しい就職戦線を意識してか、熱心に耳を傾け、質問しておりました。3年次生にとりましても大いに参考になったのではないかと期待しております。

なお、本年度より学生課から独立しまして、就職課が新設されました。厳しい就職戦線に備えての就職活動の充実を目的としてであります。新しい課長に9月1日付けで、内田勝彦氏（藤沢薬品工業KK学術部次長より）を迎え、係長の澤田あつ子さんと私とで出発することになりました。何卒御協力、御指導の程よろしくお願い申し上げます。

表Ⅱ 平成7年度就職・進学内定状況

（平成7年10月20日現在）

区 分	男子	%	女子	%	男女	%
薬業関連会社（営業）	27	20.6	16	7.3	43	12.3
（研究・品質管理）	7	5.3	22	10.0	29	8.3
薬 局・小 売	14	10.7	17	7.8	31	8.9
病 院・診 療 所	1	0.8	24	11.0	25	7.1
研 修 生	1	0.8	5	2.3	6	1.7
公 務 員	1	0.8	3	1.4	4	1.1
進 学（大学院）	25	19.1	10	4.6	35	10.0
不 就 職	1	0.8	2	0.9	3	0.9
自 家 業	1	0.8	3	1.4	4	1.1
就 職 未 定 者	53	40.5	117	53.4	170	48.6
合 計	131	100.0	219	100.0	350	100.0



平成6年度学校法人決算について

事務局長 河野 光 次

去る平成7年5月18日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成6年度決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書を掲載し、その概要を説明することとしたい。

(収 入)

平成6年度における帰属収入の合計額は、33億1590万円余で、予算に比して約10億円の増であった。これは主として、資産売却差額約7億円が発生したことによるが、学生納付金や補助金等の他の収入科目も、いずれも予算を上回る増収であった。

「資産売却差額」に表示された決算額7億250万円余の収入は、河合薬草園・テニスコートの土地を売却したことによるものである。これは、移転事業の一環として理事会・評議員会において了承されたものであり、薬草園・テニスコートは野遠グラウンド

および本部校地に移設された。

(支 出)

平成6年度における消費支出の合計額は、21億1437万円余で、予算に比して約1億円の減であった。

人件費が約8000万円の予算残となっているが、これは、平成6年度の本学教職員給与与改定率（国家公務員の人事院勧告に準拠）が1.18%と昨年に引き続き非常に低率であったことおよび、その他の人件費抑制努力によるものである。

管理経費が約3000万円の予算超過となっているが、これは主として、高槻キャンパスの開発関連費用が予算外に発生したことによる。

以上の結果、平成6年度は約8億6500万円の収入超過となったが、土地売却による収入を除けば、約1億6000万円の収入超過であった。

消 費 収 支 計 算 書 総 括 表

＜平成6年4月1日から平成7年3月31日まで＞

(単位 円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,925,900,000	2,087,025,000	△ 161,125,000	人 件 費	1,310,500,000	1,228,475,687	82,024,313
手 数 料	69,000,000	96,854,396	△ 27,854,396	教 育 研 究 経 費	553,100,000	519,189,261	33,910,739
寄 付 金	0	31,190,047	△ 31,190,047	管 理 経 費	95,000,000	126,198,725	△ 31,198,725
補 助 金	252,900,000	299,886,590	△ 46,986,590	借 入 金 等 利 息	228,600,000	228,612,890	△ 12,890
資 産 運 用 収 入	30,000,000	55,852,570	△ 25,852,570	資 産 処 分 差 額	0	11,895,250	△ 11,895,250
資 産 売 却 差 額	0	702,506,470	△ 702,506,470	[予 備 費]	30,000,000	0	30,000,000
事 業 収 入	6,200,000	12,847,199	△ 6,647,199	消費支出の部合計	2,217,200,000	2,114,371,813	102,828,187
雑 収 入	24,300,000	29,744,524	△ 5,444,524	当年度消費収入超過額	0	864,529,864	
帰属収入合計	2,308,300,000	3,315,906,796	△ 1,007,606,796	当年度消費支出超過額	270,900,000	0	
基本金組入額合計	△ 362,000,000	△ 337,005,119	△ 24,994,881	前年度繰越消費支出超過額	1,563,200,000	1,514,340,724	
消費収入の部合計	1,946,300,000	2,978,901,677	△ 1,032,601,677	翌年度繰越消費支出超過額	1,834,100,000	649,810,860	

第30回大薬祭を顧みて

学生部長

教授 望 月 伸 三 郎

第30回大薬祭は、11月10日のバレーボール大会から始まった。前日までの烈風の荒れ模様のお天気は嘘のような絶好のスポーツ日和りとなった。

大薬祭実行委員会からの開会直前の依頼に拘らず学長先生は都合を付けてくださり、「私は、学長というよりも大阪薬科大学第1期生の大先輩として心から30回大薬祭をお祝いいたします……云々」と挨拶されて、始球式として大きなサーブを打たれて26チーム参加の大会は始まった。

金曜日ということでバレーの試合と模擬店による本学の学生だけの和気合い合いの1日だった。試合のほうにはバレー部経験者の「競馬研究会」とバスケの女子で固めた「アマゾンズ」との決勝戦となり1日の長をもつ「競馬研究会」が優勝した。

2日目も天気予報では心配したが、晴天に恵まれた。駅を降りるとフォークソング部のボリュームいっぱいの演奏を耳にした。学生会館では、茶道部のお点前、華道部の生花展示、古美術研究会や漢医研の発表展示会、コーラス部の発表会などが学園祭の雰囲気

気を盛り上げてくれた。

午後からの体育館で開催された「吉本ライブ」には400人以上の入場があった。

2日目のメインイベントは各クラブ対抗による『バラの祭典』である。会場は異様に盛り上がったが、ストーリーとアクションの表現力により陸上競技部に栄冠が輝いた。昨年までは、男性の女装を競う美しさが主流だったが、今年は男性同志の愛情の表現を競う方向の発表が多く、時代の流れというか、若い人の方向性の変化を感じる思いがした。

3日目も小春日和で晴天に恵まれた3日間であった。午前中は昨日と同様野外で軽音楽部の演奏がグラウンドに轟き、午後の「吉本ライブ」は、話題が「APEC」と「高校時代の生活指導」、「私らの名前を知っているか」、「拍手が多いとか、少ないとか」に偏り、これでも<プロ?>といった感じ……

このあとの「Miss 薬大」コンテストは、各クラブから選ばれた美人たちの共演に模擬店を放り出したの声援が会場を沸かした。結果は陸上競技部の島



田さんが優勝、準優勝は漢法医学研究部の堀川さんに輝いた。このコンテストは成績集計に時間が掛り、その合間を審査員の沼田先生のコアラの縫いぐるみを着てのパフォーマンスが会場を沸かす一幕もあり楽しく終演した。

今年は、大学移転の準備で薬草園移設により会場が狭くなり、新カリキュラムで全学生が前日まで実習をしたので、例年のようにピロティーでの準備も見られず開催準備は進んでいるのかと心配されたが、大葉祭実行委員会の努力と学友会執行部との連携プレーで学生達のお祭りとして成功だった。

成功の最大の要因は天気予報がはずれ3日間とも暖かな晴天に恵まれたことである。祭典の途中で雨に降られると、模擬店の混乱、「吉本ライブ」への支障など大変なことだったと思う。とにかく「松原学舎」への哀感を込めた3日間、第30回大葉祭は無事終了した。

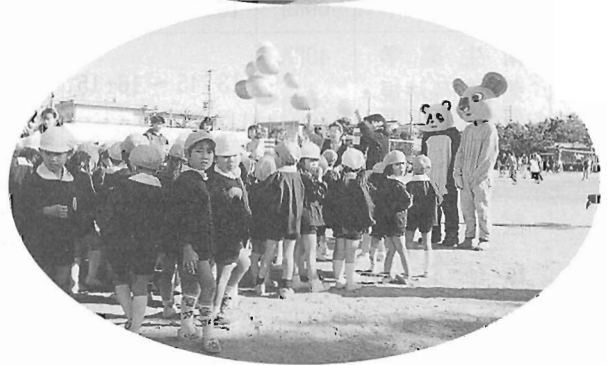
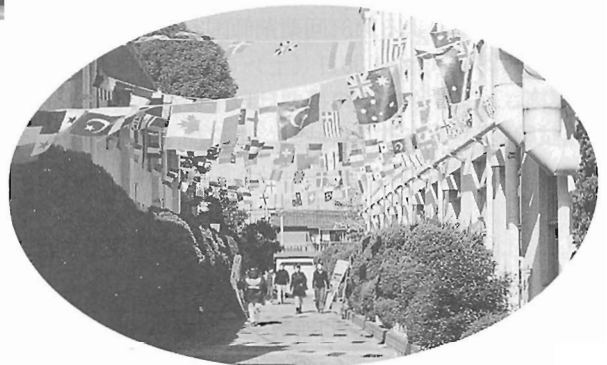
本学が大学としてスタートしたのは1950（昭和25）年である。今年'95年まで45年の歳月を経ている。大葉祭のパンフレットには第30回とあるので15年のずれがある。その点を学長の岡先生に伺うと、先生の頃も大学内で体育祭をやり、大阪市内で文化部の発表会として大きな会館を借りて演劇、能（宝生流と観世流）、詩吟、コーラス、など今は無いクラブを含め多くのクラブが活躍し、メインに有名人の講演が行われ「貸し切りの会館」で1日を楽しく過ごしたとのことでした。

そうした形の学祭では一般学生には分かりにくいのでと言うことから、1966（昭和41）年に第1回のパンフレットが生まれたものと思われます。それでも第17回までは体育祭を学内、文化発表会は学外（松原市民会館など）で行われていた。第18回（学生部長栗原先生）から体育祭も文化祭も学内でということから、グラウンドと体育館を使つての学祭となった。この頃の特徴は、前記の文化部や、寮生の公演、男子ロッカー室のお化け屋敷、34教室の映画なども話題を呼んでいた。体育祭種目は、「2人3脚」「借物競争」「三輪車レース」「アスレチックリレー」「男女混合リレー」といったリレー競技が中心だった。

その後リレーのような個人の結果がはっきり解るものは嫌われ、一時体育祭もなくなり2日間の文化発表会だけで終る年も何年か続いたが、第25回大葉祭から体育祭は野遠グラウンドでのソフトボール大会として復活した。しかし、野遠グラウンドは学舎から遠く、学生の集まりも悪い

ということで第28回大葉祭から本学のグラウンドでバレーボール大会となった。更に体育館での演技は暗い感じだからと昨年から明るい空の下で伸び伸びと若者らしい情熱を发泄させようとグラウンドに野外ステージを組んで近所の人達と楽しくと言うことで、フリーマーケットも開催して大変好評だった。この松原でのページも終り、来年からは装いも新たな高槻のページがどんな形を作るか楽しみです。





教務課だより

■ 大学入試センター試験について

平成8年度大学入試センター試験は、平成8年1月13日(土)・14日(日)に実施されますが、昨年度と同様、今回も本学を試験会場として、500名(男子361名、女子139名)の受験生が受験する予定です。

■ 薬剤師国家試験の概要について

新出題基準による第81回薬剤師国家試験は、平成8年3月29日(金)・30日(土)の2日間にわたって実施されますが、その概要は以下の通りです。

(試験地) 北海道、宮城県、東京都、富山県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、福岡県

(大阪府の試験会場は本学の予定です。)

(試験科目等) 3月29日(金)

科目	問題数	時間
基礎薬学	60問	10:00～12:30
衛生薬学	40問	13:45～16:15
薬事関係法規・薬事関係制度	20問	

3月30日(土)

医療薬学	60問	10:00～12:30
医療薬学	60問	13:45～16:15
合計	240問	

(合格者発表) 平成8年4月23日(火)

第80回国試結果(新卒合格率:全国第1位の93.51%)の好成績を維持するよう、4年次生の奮起を期待します。

■ 大学移転作業に伴う措置について

平成8年4月の高槻新キャンパス開校に伴う移転作業が本年度末に控えているため、後期行事予定等について次のような措置を講ずることになりました。

- 1～3年次生の後期授業開始日を若干繰り上げるとともに、授業期間を大幅に短縮した。
- 2・3年次生の後期実習(2年次生:生物科学

3, 生薬学, 3年次生:放射化学, 衛生化学, 薬理学)については、本年度に限り、進級査定の対象科目から除外した。

- 4年次生の薬学総合演習再試験, 卒業生発表の日程を繰り上げ, 第43回卒業式を3月9日(土)とし, 国試(3月29日・30日)までの準備期間に配慮した。

■ 「医療薬学実習」の開設について

本学では、医療薬学の一層の充実を図るため、現3年次生から、「医療薬学実習」(2週間の短期病院実務実習(研修))を専門教育科目・関連科目のうちの選択科目・1単位として開設・単位化しました。

本実習は、大阪府、奈良県、和歌山県に所在する95の本学指定病院で実施するもので、開講時期は、3年次から4年次の間の春季休業中と4年次の夏季休業中です。

平成8年度

大学院薬学研究科博士前期 課程(修士課程)入学試験

(1次募集)

募集人員 30名

出願期間 平成7年7月25日(火)～8月5日(土)

学力試験 8月22日(火)〔外国語科目(基礎英語問題・専門英語問題), 専門科目(共通問題・選択問題)〕

合格発表 8月29日(火)

志願者 52名〔男子36(学外1), 女子16〕

受験者 52名〔男子36(学外1), 女子16〕

合格者 29名〔男子20, 女子9〕

(2次募集)

募集人員 若干名

出願期間 平成7年10月11日(水)～10月16日(月)

学力試験 10月24日(火)(1次募集に同じ)

合格発表 10月30日(月)

志願者 19名〔男子15, 女子4〕

受験者 19名〔男子15, 女子4〕

合格者 9名〔男子6, 女子3〕

薬学研究科（修士課程）の主な研究内容

専攻科目	指導教員	研究内容
薬化学	教授 沼田 敦	海洋微生物の抗腫瘍性代謝産物の構造研究 昆虫生理活性物質の構造および合成に関する研究
	助教授 有本 正生	リグナン関連化合物に関する研究 有機ケイ素化合物に関する合成研究 高原子価有機ヨウ素化合物を用いる反応に関する研究
生薬学	教授 草野源次郎	植物由来の生理活性物質に関する研究 生薬含有成分の定量法に関する研究
	助教授 三野 芳紀	生体の鉄取り込み機構に関する研究
薬品製造学	助教授 馬場きみ江	生薬成分の構造解析およびその生理活性に関する研究 植物の成分と分類体系の相関性に関する研究
	教授 栗原 拓史	創薬を目指した含窒素複素環化合物の合成研究 環状チオノカーボネートを用いる生理活性天然物の合成研究
薬品製造学	助教授 春沢 信哉	合成試薬の開発と応用に関する研究 ヘテロアリアル C-ヌクレオシドの合成研究
	助教授 赤木 昌夫	医薬品、生体成分の光化学反応に関する研究 光化学反応による生理活性物質の合成研究 合成オリゴヌクレオチドと制癌剤との相互作用に関する研究
医薬品化学	教授 松永 春洋	森林産業廃棄物の医薬への活用：発癌プロモーション抑制作用を有するマツ科 亜高山植物樹皮および葉の含有成分トリテルペノイド類の医薬への応用開発
	講師 田中 麗子	癌細胞増殖抑制作用を有するトウダイグサ科有毒帰化植物成分の医薬への応用開発 抗真菌活性を有するテルペノイド化合物に関する研究
衛生化学	教授 藤田 直 助教授 藤本 陽子	活性酸素、過酸化脂質の生成と消去に関する研究 アラキドン酸代謝とその調節機構に関する研究
生化学	教授 池田 潔	ホスホリパーゼの酵素機能の分子論 細胞成長因子の分子生物学
	講師 井上 晴嗣	細胞毒タンパク質の構造と機能
微生物学	教授 保坂 康弘	インフルエンザウイルスの体内伝播と局所免疫応答の研究
	助教授 黒田 和道	ウイルスの抗原提示機構の分子生物学的および細胞生物学的研究 抗インフルエンザウイルス活性をもつ物質やワクチンの研究
	教授 稲森 善彦	微生物由来の酵素遺伝子の解析および改変
	助教授 辻坊 裕	微生物における酵素遺伝子の発現調節機構 含硫化合物の合成と生物活性 微生物変換における有用物質の生産
薬剤学	助教授 松村 瑛子	新しい微生物酵素の発見とその応用に関する研究 微生物の産生する免疫調節物質に関する研究 老化にともなう脳内酵素活性の変動と神経細胞の分化・生存に影響を及ぼす 諸因子の研究
	教授 掛見 正郎	薬物の生体内動態と薬理効果の消長に関する速度論的研究 医薬品の吸収・分布・代謝・排泄に関する薬物速度論的研究
薬理学	助教授 森本 一洋	医薬品の最適投与方法、投与計画の設定と、それに基づいた最適製剤および 最適薬物送達系の設計
	教授 玄番 宗一	薬物による腎毒性の発現機構と防衛 虚血性腎障害の病態生化学と薬理学
薬品分析学	助教授 松村 晴夫	循環器系薬物に関する薬理学的研究 レニン・アンジオテンシン系およびカリクレイン・キニン系の薬理学 エンドセリンの産生機構に関する研究
	教授 森 逸男 助教授 藤田 芳一	有機試薬に関する研究 医薬品、生体成分の分析に関する研究
薬品物理化学	教授 千熊 正彦	医薬品、生体関連物質と金属イオンとの相互作用に関する研究
	講師 齊藤 睦弘	微量元素、生体成分に関する分析化学的研究 機能性高分子の分析化学的応用に関する研究
薬品物理化学	教授 石田 寿昌	生体分子認識機構の構造化学 酵素阻害剤の分子設計 タンパク質合成開始因子の構造機能解析
	助教授 土井 光暢	生理活性ペプチドの構造解析 タンパク質——核酸相互作用に関する構造化学的研究
放射薬品学	教授 田中 千秋 助教授 大桃 善朗	放射性医薬品の開発研究
	助教授 木村捷二郎	放射線および核的現象の薬学利用に関する研究 地球環境と放射能動態に関する研究

関西薬連・全薬大会結果〔平成7年度〕

◎ 関西薬連	団体		個人
バレーボール部	男子4位(10校中) 女子1位(11校中)		
卓球部	男子2位(6校中) 女子3位(7校中)		男子シングルス 3位 水長③ 男子ダブルス 2位 水長③粕淵③ 女子シングルス 3位 林② 女子ダブルス 2位 土井②林②
バドミントン部	男子2位(10校中) 女子1位(10校中)		女子シングルス 2位 道端② 3位 今井③ 女子ダブルス 1位 今井③道端② 新人戦女子 3位 田中(恵)①
硬式野球部	3位(4校中)		
柔道部	4位(5校中)		有段の部 2位 田中④
硬式テニス部	男子7位(11校中) 女子1位(11校中)		
陸上競技部	総合2位(4校中)		
	男子	トラック 3位 フィールド 2位 4×100mR 3位 4×400mR 3位	三段跳び 2位 只野④ 三段跳び 3位 佐々木① 円盤投げ 1位 小川② やり投げ 3位 塚本② 100m 2位 武政② 100m 3位 野坂① 3,000m 2位 氏林① 100m障害 3位 佐藤① 走り幅跳び 3位 田中③ やり投げ 1位 中村③ やり投げ 2位 三島③ 円盤投げ 2位 脇③
	女子	トラック 2位 フィールド 1位 4×100mR 2位	
剣道部	男子1回戦敗退 女子3位(7校中)		3位 勝間④
軟式テニス部	男子5位(9校中) 女子3位(9校中)		女子 2位 叶④梁川④
バスケットボール部	男子1位(6校中) 女子3位(5校中)		
サッカー部	2位(8校中)		
◎ 全薬	団体		個人
卓球部	男子4位(11校中)		男子ダブルス 3位 水長③粕淵③ 女子シングルス 2位 土井② 女子ダブルス 3位 土井②林②
軟式テニス部	男子3位(13校中) 女子1位(10校中)		
剣道部	男子1回戦敗退 女子3位(10校中)		男子個人戦 3位 大曲① 女子個人戦 1位 木村③
バスケットボール部	男子2位(10校中) 女子予選落ち		

学生課だより

■ ミーティングキャンプについて

ミーティングキャンプが、夏季休業中の8月19日(土)から1泊2日で、関西地区大学セミナーハウスにおいて開催されました。

学友会執行部、大薬祭実行委員、各クラブ部長、次期部長候補等75名および学生部委員等7名の計82名が参加しました。

第1日目は、校医の朝井先生による「喫煙と運動」、「一気飲みについて(肝臓のアルコール処理能力)」の講演のあと、各クラブの活動報告、学祭会議、学生部委員とのフリートークが9時過ぎまで行われました。

翌日も、午前中学生部委員とのフリートークが行われました。



■ 阪神淡路大震災について

学生、教職員有志等により、義援金1,693,178円の義援金が集まりました。ご協力ありがとうございました。

この義援金のうち160万円は、震災時に在学学生で全半壊の被災に遭った22名に配分しました。残額の93,178円は、学友会義援金と併せて再配分を学友会に委託しました。

また、父兄会からも全半壊の学生(新入生含む)、教職員に見舞金を頂戴し贈らせていただきました。

被災された皆様へのお見舞いと、1日も早い復興をお祈りいたします。

新キャンパスへの自動車・ 単車通学禁止について

- ① 近隣住民への騒音による迷惑防止
- ② 交通事故から学生、住民を守る
- ③ 駅前の駐輪スペースがない

という観点および高槻市からの要望もあり、学部学生の自動車・単車(原付含む)の通学を禁止します。公共交通機関を利用するようにしてください。

健康上・身体上、その他特別な理由で車両を必要とする学生は、学生課へ申し出てください。

奨学生状況

1. 日本育英会

平成7年11月1日現在

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
1種	17	28	28	28	5	4	1	0	1	112
2種	17	25	23	31	1	0	0	0	0	97
計	34	53	51	59	6	4	1	0	1	209

2. その他の育英・奨学金

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給貸
小野奨学会 30,000円	1	1	2	1	—	5	給
佐藤奨学会 17,000円	0	0	1	0	—	1	給
大東育英会 25,000円	0	0	0	1	—	1	給
朝鮮奨学会 25,000円	0	0	0	1	—	1	給
大阪府育英会 23,000~26,000円	4	2	1	8	—	15	貸
電通育英会 20,000~25,000円	1	0	1	0	—	2	貸
父兄会奨学会 20,000円	3	3	1	1	1	9	貸
あしなが育英会 40,000円	0	1	0	0	—	1	貸
若田市教育委員会 20,000円	0	2	0	0	—	2	貸
田布施町教育委員会 20,000円	0	0	0	1	—	1	貸
岡山県育英会 44,000円	1	0	0	0	—	1	貸

保健室だより

■ 骨とカルシウム

近年、寝たきり老人・子供の骨折の増加が問題になっています。調査データ（日本学校健康会・中央労働災害防止協会）では子供の骨折は1980年頃より除々に増加し、この15年間で小学生は2倍・中学生は1.5倍に、成人においてもちょっとこけただけ・ほんの少し手をつただけで骨折する。若い女性の無理なダイエットによる骨量の減少、老人の骨密度の減少による骨折で寝たきり状態になる。このような現状は骨の退化を表わしていると言われ、骨への関心が高まっています。

■ 骨について

人間の骨は206本あり、形によって保護作用・支持作用・カルシウムの貯蔵の役目をしている。

★ カルシウムとの関係

体内に含まれるカルシウムの99%は骨に蓄えられ、残り1%は血液・細胞にある。血液中のカルシウムは常に一定濃度（血液100ml/9~10mg）に保たれている。カルシウム摂取不足が続くと血中カルシウム濃度が低下するため、骨中のカルシウムが血液中に流出される。そのためつくられる骨よりこわされる骨の方が多くなり、骨中のカルシウム不足がおこり骨量の低下となる。

★ カルシウム不足と病気

日本人の伝統的な食品にはカルシウムが豊富に含まれているものが少なく、限られた食品から積極的に摂取しなければならない。不足が原因で生体のカルシウム調節機構が崩れると〔高血圧〕・〔動脈硬化〕・〔糖尿病〕に関与してくる。又、直接的には骨密度の減少により骨がスカスカになり、日常生活に支障をきたす状態の〔骨粗鬆症〕という病気になる。〔骨粗鬆症〕はある日突然に起きるのではなく、性別・年齢・体質・長い間の生活習慣等がからんで徐々に発病する。

★ 骨を丈夫にするために

i 偏食をしない！

食物中に塩分・糖分・リンなどが多過ぎると、カルシウムを体内に取り込みにくくなる。

ii 栄養バランスを考え、適度な食事量を取る！

ダイエットや朝食抜きは摂取量が減り、カルシウムの取り方も少なくなる。

iii 適度な運動を心がける！

運動で骨を刺激することにより、骨細胞が活発になり骨の形成が盛んになる。

iv 適度な日光浴を心がける！

日光浴はビタミンDの形成を助け、カルシウムの吸収を促進する。

v 毎日必要量のカルシウムを取る！


日本人のカルシウム摂取量は、先進国中最低レベルです。身体に吸収されやすい牛乳・乳製品を毎日取るようにする。（記 保健室 辻悦子）

カルシウム必要量 (mg)/日

年代	幼児	成長期	成人	妊婦	授乳婦	老人
必要量	400	800~900	600	1000	1100	400~500

カルシウム不足解消に心がけましょう

カルシウムを 200mg とる目安

<p>乳製品</p>  <p>牛乳 (200g) 1本</p>  <p>チーズ 約30g</p>	<p>小魚類</p>  <p>めざし 3~4本</p>  <p>しらす 約30g</p>  <p>にほし 約10g</p>	<p>豆類</p>  <p>豆腐(木綿) 2/3丁</p>  <p>納豆 約2パック(200g)</p>  <p>かんもどぎ 約1枚(70g)</p>
<p>野菜類</p>  <p>ゆでて100g 小松菜</p>  <p>にんじん 約2本</p>	<p>ごま</p>  <p>乾燥ゴマ</p>  <p>大さじ2杯(17g)</p>	<p>海藻類</p>  <p>干しヒジキ(15g)</p>  <p>小鉢3個(調理済)</p>

骨の健康度チェック!

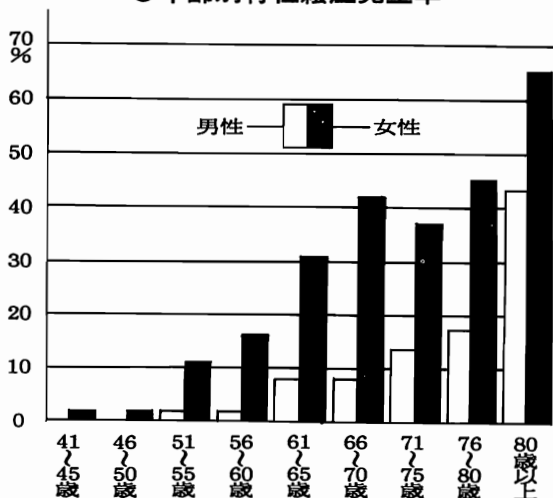
1つでも思い当たることがあったら、さっそく生活習慣を変えるようにしましょう。

食生活	牛乳、乳製品をあまりとらない。	2
	小魚、豆腐をあまりとらない。	2
	タバコをよく吸う。	1
	お酒（アルコール）はよく飲む方だ。	1
運動	天気の良い日でもあまり戸外に出ない。	2
	運動はもちろん、身体を動かすことが少ない。	4
身体の特徴、他	ちょっとしたことで骨折をした。	10
	体格はどちらかといえば細身である。	2
	家族に「骨粗しょう症」と診断された人がいる。	2
	糖尿病であったり、胃腸の手術を受けたことがある。	2
	閉経をむかえた(女性)。/70歳以上である(男性)。	4
	生理不順。	1
	最近背が縮んだような気がする。	6
最近背中が丸くなったり、腰が曲がってきたような気がする。	6	

あなたの診断結果は

- 10点以上 ・骨が弱くなっていると考えられます。一度医師の診断を受けてください。
- 6点以上 ・骨が弱くなっている危険性があります。注意しましょう。
- 3点以上 ・今後骨が弱くなる可能性があります。日常生活に心掛けましょう。

●年齢別骨粗鬆症発生率



経理課だより

■ 学費の改定について (学部)

本学では、平成5年度より学費スライド制を実施しています。

これに伴い、来年度の学費について諸般の事情を考慮し慎重に検討を重ねた結果、約3% (5万円)の値上げを決定しました。

したがって、平成5年度以降の入学生の学費は、次のとおりとなります。(平成4年度までの入学生の学費については改定されません。)

(単位 円)

区 分	現 行	改定後
授 業 料(年額)	1,000,000	1,000,000
施設・設備費(年額)	400,000	450,000
実験・実習費(年額)	200,000	200,000
計	1,600,000	1,650,000

なお、平成8年度前期分学費の納付書は4月初旬に発送予定です。

(納付期日 4月11日～4月20日)

■ 同窓会費の納付について

学部学生は、卒業までに同窓会入会金 (30,000円) および同窓会費10年分 (20,000円) を納付することになっています。

納付方法は、4期分割納付となっており、3年次前期・後期および4年次前期の学費納付時に各10,000円の同窓会入会金を、また4年次後期の学費納付時に20,000円の同窓会費10年分を学費に加えて請求します。

人事異動

■法人人事

- ◇理事就任(平成7年10月1日付)
岡 源 郎
- ◇理事・評議員退任(平成7年9月30日付)
森 本 史 郎
- ◇評議員就任(平成7年12月1日付)
藤 田 直

■学内人事

学 長(平成7年10月1日付)
岡 源郎(任期4年)

昇 任(平成7年9月1日付)
係長 澤田あつ子(就職課)

採 用(平成7年10月1日付)
新築工事事務所長 山崎 修(嘱託)

配 置 換(平成7年11月1日付)
北氏 明正
(事務局次長
学生課長(併任)・図書課長(併任)より)

退 任(平成7年9月30日付)
森本 史郎・学長事務取扱

出 向(平成7年9月1日付)
就職課長 内田 勝彦

海外出張

石田 寿昌 教授(第二物理化学教室)
〈出張期間:平成7年8月16日~8月26日〉
中国・揚州で開催の The second Symposium on
Frontier of Protein Chemistry and Biotechno-
logy 学会で発表

玄番 宗一 教授(第二薬理学教室)
〈出張期間:平成7年6月30日~7月8日〉
アメリカ・シアトルで開催の第7回国際毒科会議
に出席

坂田 勝治 教授(英語)
〈出張期間:平成7年8月6日~9月16日〉
アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校の
サマーセッションに参加

当麻 成人 助手(体育)
〈出張期間:平成7年8月28日~9月11日〉
イタリア・ローマとミラノで水球のクラブチーム
を視察

森本 一洋 助教授(第二薬剤学教室)
〈出張期間:平成7年10月7日~10月16日〉
アメリカ・ボストンで開催の Conference on
Formulations and Drug Delivery (Sponsored
by The American Chemical Society Division
of Biochemical Technology) 学会で発表

研究助成

平成7年度
松村 靖夫 助教授(第一薬理学教室)
「内藤記念科学奨励金」(130万円)
内藤記念科学振興財団
エンドセリン-1の病態生理学的役割に関する研究

平成5年度(追記)
森本 一洋 助教授(第二薬剤学教室)
「コスメトロジー研究」一般研究B(100万円)
コスメトロジー研究振興財団
不飽和脂肪酸とその過酸化生成物の皮膚角質
層への作用に関する研究

学位授与

修士(薬学)(平成7年9月28日付)
修第237号 奥家 健司(微生物学)
Protease activation mutant を用いたA型イン
フルエンザウイルスワクチンの開発を目指した遺
伝子工学的基礎研究

図書館だより

■ 図書館利用状況について

過去3年間（平成4年度～平成6年度）における図書館の入館者数・貸出冊数は次の通りですのでお知らせします。

○入館者数

(人)

年度	4	5	6
1年次	2,289	2,642	5,619
2年次	1,137	2,804	2,993
3年次	2,306	1,368	5,087
4年次	1,898	2,469	4,012
院 生	2,190	1,265	2,085
教職員	2,219	2,193	2,965
外来者	69	86	100
合 計	12,108	12,827	22,861

○貸出冊数

(冊)

年度	4	5	6
学 生	2,872	3,010	3,966
教職員	2,244	1,310	1,107
合 計	5,116	4,320	5,073

注) 開館時間

[講義および試験期間]

- ・月～金曜日：午前9時～午後6時
- ・土 曜 日：午前9時～午後4時30分

[その他の期間]

- ・月～金曜日：午前9時～午後5時
- ・土 曜 日：午前9時～午後1時

■ 希望図書について

このたび、下記図書を購入し閲覧室に配架していただきますので活用してください。

(書 名)	(出 版 社)
・地球にやさしい生活術	(TBSブリタニカ)
・モリソン有機化学(上, 中, 下)	(東京化学同人)
・コンピューター基礎論	(ソフトバンク社)
・「私」はなぜ存在するか	(哲学書房)
・からだの見方	(筑摩書房)
・自己を創出する生命	(哲学書房)
・だから、せっけんを使う	(三一書房)
・植物のPCR実験プロトコール	(秀潤社)
・初歩のスペイン語(カセット)	(大学書林)
・やさしいスペイン語(カセット)	(白水社)

■ 寄贈図書について

このたび、下記図書の寄贈がありました。志に対して感謝を込め大切に使用してください。

※本学同窓会から

(書 名)	(出 版 社)
・内科治療ガイド 1995	(文光堂)
・今日の処方	(南江堂)
・治療薬マニュアル 1995	(医学書院)
・処方を考える	(広川書店)
・処方からみた服薬指導の実際	(薬業時報社)
・医薬品適正使用の基礎と実践	(薬業時報社)
・ポケット医薬品集 1995	(白文社)
・飲食物・嗜好品と医薬品の相互作用	(薬業時報社)

※村上清尚氏(第24期卒業生)から

- ・21世紀の食を探る 一何を食べたらいいのか

平成7年度
各部・委員会・委員

◎各部署の長

(平成7年12月1日現在)

教務部

馬場きみ江(助教授)
松村 靖夫(助教授)
辻坊 裕(助教授)

◎沼田 敦(教授)
松島 哲久(助教授)
藤本 陽子(助教授)
大桃 善朗(助教授)

学生部

木村捷二郎(助教授)
藤田 芳一(助教授)
楠瀬 健昭(助教授)

◎望月伸三郎(教授)
松村 瑛子(助教授)
春沢 信哉(助教授)

就職部

藤田 直(教授)
辻坊 裕(助教授)

◎稲森 善彦(教授)
松村 瑛子(助教授)
大桃 善朗(助教授)

図書館

三野 芳紀(助教授)
楠瀬 健昭(助教授)

◎藤田 直(教授)
藤田 芳一(助教授)

学生寮

馬場きみ江(助教授)
藤本 陽子(助教授)

◎望月伸三郎(教授)
濱中久美子(助教授)

薬用植物園

松永 春洋(教授)
馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(助教授)
喜多 俊二(助手)
芝野真喜雄(助手)

◎草野源次郎(教授)
沼田 敦(教授)
木村捷二郎(助教授)
西野 隆雄(講師)
谷口 雅彦(助手)
森本 武司(事務局次長
施設課長)

実験動物センター運営委員会

藤田 直(教授)
保坂 康弘(教授)
松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

◎玄番 宗一(教授)
池田 潔(教授)
掛見 正郎(教授)
松村 靖夫(助教授)
西野 隆雄(講師)

総務委員会

沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授)
望月伸三郎(教授)
石田 寿昌(教授)

◎岡 源郎(学長)
藤田 直(教授)
池田 潔(教授)
稲森 善彦(教授)
河野 光次(事務局長)

施設委員会

森 逸男(教授)
藤田 直(教授)
池田 潔(教授)
千熊 正彦(教授)

◎岡 源郎(学長)
沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授)
石田 寿昌(教授)
河野 光次(事務局長)

研究委員会

森本 一洋(助教授)

◎保坂 康弘(教授)
大桃 善朗(助教授)

大学院小委員会

栗原 拓史(教授)

◎森 逸男(教授)
保坂 康弘(教授)

R I 施設運営委員会

森本 史郎(教授)
藤田 直(教授)
玄番 宗一(教授)
石田 寿昌(教授)
草野源次郎(教授)
木村捷二郎(助教授)

◎田中 千秋(教授)
沼田 敦(教授)
保坂 康弘(教授)
稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授)
河野 光次(事務局長)

動物実験委員会

藤田 直(教授)
玄番 宗一(教授)
松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)
伊藤 美雄(庶務課長)

◎池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授)
掛見 正郎(教授)
松村 靖夫(助教授)
西野 隆雄(講師)

組換えDNA実験安全委員会

森本 史郎(教授)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
黒田 和道(助教授)
伊藤 美雄(庶務課長)

◎保坂 康弘(教授)
田中 千秋(教授)
稲森 善彦(教授)
松島 哲久(助教授)
細川 康(学外)

バイオハザード予防委員会

田中 千秋(教授)
保坂 康弘(教授)
安田 正秀(講師)

◎稲森 善彦(教授)
池田 潔(教授)
松村 瑛子(助教授)

環境保全委員会

田中 千秋 (教授) 保坂 康弘 (教授) 稲森 善彦 (教授)
 ◎松永 春洋 (教授) 池田 潔 (教授) 玄番 宗一 (教授) 森本 武司 (事務局次長 施設課長)

防火対策委員会

沼田 敦 (教授) 望月伸三郎 (教授) 河野 光次 (事務局長) 森本 武司 (事務局次長 施設課長) 北氏 明正 (事務局次長 学生課長)
 ◎岡 源郎 (学長) 栗原 拓史 (教授) 稲森 善彦 (教授) 伊藤 美雄 (庶務課長) 高橋 正好 (教務課長)

情報処理室運営委員会

沼田 敦 (教授) 保坂 康弘 (教授) 掛見 正郎 (教授) 大石 宏文 (助手) 北氏 明正 (事務局次長 学生課長)
 ◎石田 寿昌 (教授) 望月伸三郎 (教授) 土井 勝 (教授) 土井 光暢 (助教授) 高橋 正好 (教務課長)

大型共同機器整備計画委員会

沼田 敦 (教授) 土井 勝 (教授) 木村捷二郎 (助教授) 三野 芳紀 (助教授)
 ◎保坂 康弘 (教授) 藤田 直 (教授) 石田 寿昌 (教授) 松村 瑛子 (助教授)

建設委員会

沼田 敦 (教授) 池田 潔 (教授) 河野 光次 (事務局長)
 ◎栗原 拓史 (教授) 藤田 直 (教授) 石田 寿昌 (教授)

移転委員会

玄番 宗一 (教授) 掛見 正郎 (教授) 河野 光次 (事務局長) 森本 武司 (事務局次長 施設課長)
 ◎森 逸男 (教授) 千熊 正彦 (教授) 木村捷二郎 (助教授) 伊藤 美雄 (庶務課長)

人権委員会

森 逸男 (教授) 稲森 善彦 (教授) 松島 哲久 (助教授)
 ◎望月伸三郎 (教授) 沼田 敦 (教授) 阿部 功 (助教授) 北氏 明正 (事務局次長 学生課長)

自己評価検討委員会準備委員会

森 逸男 (教授) 藤田 直 (教授) 望月伸三郎 (教授) 木村捷二郎 (助教授)
 ◎岡 源郎 (学長) 沼田 敦 (教授) 碓井 信二 (教授) 保坂 康弘 (教授) 松村 瑛子 (助教授)

入試委員会

森 逸男 (教授) 碓井 信二 (教授) 千熊 正彦 (教授)
 ◎岡 源郎 (学長) 沼田 敦 (教授) 望月伸三郎 (教授)

入試制度委員会

掛見 正郎 (教授) 加藤 義春 (助教授) 辻坊 裕 (助教授)
 ◎藤田 直 (教授) 阿部 功 (助教授) 藤田 芳一 (助教授) 黒田 和道 (助教授)

医療薬学実習委員会

千熊 正彦 (教授) 馬場きみ江 (助教授) 三野 芳紀 (助教授) 西野 隆雄 (講師)
 ◎掛見 正郎 (教授) 赤木 昌夫 (助教授) 中元 安雄 (助教授) 森本 一洋 (助教授)

薬剤師国家試験対策委員会

森本 史郎 (教授) 中元 安雄 (助教授) 辻坊 裕 (助教授) 西野 隆雄 (講師)
 ◎石田 寿昌 (教授) 沼田 敦 (教授) 三野 芳紀 (助教授) 安田 正秀 (講師)

薬学教育検討委員会

松永 春洋 (教授) 碓井 信二 (教授)
 ◎森 逸男 (教授) 藤田 直 (教授) 掛見 正郎 (教授)

カリキュラム委員会

玄番 宗一 (教授) 藤田 芳一 (助教授)
 ◎千熊 正彦 (教授) 掛見 正郎 (教授) 松村 靖夫 (助教授)

公開教育講座委員会

森本 史郎 (教授) 石田 寿昌 (教授) 森本 一洋 (助教授)
 ◎掛見 正郎 (教授) 玄番 宗一 (教授) 中元 安雄 (助教授) 西野 隆雄 (講師)

市民講座委員会

保坂 康弘 (教授) 松島 哲久 (助教授) 西野 隆雄 (講師)
 ◎掛見 正郎 (教授) 玄番 宗一 (教授) 土井 光暢 (助教授)

広報委員会

木村捷二郎 (助教授) 伊藤 美雄 (庶務課長)
 ◎藤田 直 (教授) 藤本 陽子 (助教授)

平成7年度文部省科学研究費補助金採択状況

研究者	研究種目	研究課題	配分額(千円)
教授 千熊 正彦	重点領域研究	希土類キレートを標識剤とする生体成分および薬物のイムノアッセイに関する研究	2,600
教授 石田 寿昌	一般B(継続)	立体構造解析に基づくカテプシンL選択特異的阻害剤の分子設計	1,600
助手 浦田 秀仁	一般研究B	ヌクレアーゼ耐性を有する新規アンチセンスヌクレオチドの分子設計	4,400
助教授 辻坊 裕	一般C(継続)	海洋細菌 <i>Alteromonas</i> sp. 0-7 株のキチン分解酵素に関する研究	500
教授 栗原 拓史	一般C(継続)	特異的抗ウイルス活性を持つカルバウロディストミン類の合成と生理活性に関する研究	500
教授 千熊 正彦	一般研究C	シスプラチン耐性癌に有効な新規白金複合体と核酸との結合様式に関する研究	1,600
教授 池田 潔	一般研究C	ホスホリパーゼ A ₂ および C の触媒機構の解明	1,700
講師 井上 晴嗣	一般研究C	毒ヘビの血液に存在する新規なホスホリパーゼ A ₂ 阻害タンパク質の阻害機構	1,500
助教授 土井 光暢	一般研究C	ヘテロ分子間の相互作用形態 —PNA の構造化学的性質と応用—	900
助教授 松村 靖夫	一般C(時限)	エンドセリン-1 産生におけるエンドセリン変換酵素の役割と病態生理学的意義	2,000
助手 米田 龍司	奨励研究A	アゾシノインドール環を有する生理活性物質の合成研究	1,000
助手 友尾 幸司	奨励研究A	ホスホリパーゼ A ₂ の構造化学的研究と特異的阻害剤の開発	800



平成8年度入学試験概要 (全日程)

区分	推薦入試(一般公募制) (S方式)	大学入試センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 (G方式)
募集人員 (男・女)	薬学部 計70名	薬学部 薬学科 10名 製薬学科 10名 } 計20名	薬学部 薬学科 75名 製薬学科 75名 } 計150名
出願期間	H. 7. 11. 1(水)~11. 14(火)	H. 7. 12. 15(金)~H. 8. 1. 12(金)	H. 8. 1. 8(月)~1. 25(木)
入学試験日	H. 7. 11. 19(日)	{H. 8. 1. 13(土)~H. 8. 1. 14(日)}	H. 8. 2. 3(土)
合格発表日	H. 7. 12. 1(金)	H. 8. 2. 7(水)	H. 8. 2. 9(金)
入学手続締切	H. 7. 12. 20(水) 一括方式	{1次} H. 8. 2. 13(火) 2段階方式 {2次} H. 8. 3. 25(月)	{1次} H. 8. 2. 20(火) 2段階方式 {2次} H. 8. 3. 22(金)
試験場	本学(男女共)	—	本学(男)・駿台予備学校大阪南校(女)
試験科目	(外国語) 英語 90分 100点 (小論文) 90分 100点	{数学} 数学 I 100点 数学 II 100点 {外国語} 英語 200点 {国語} 国語 200点 {理科} 化学 100点×2 生物 物理より1科目選択 (800点満点) (本学の個別学力検査は課さない)	{数学} 数学 I 90分 100点 代数・幾何 基礎解析 {外国語} 英語 II 90分 100点 英語 II B 英語 II C {理科} 化学 90分 100点 (300点満点)

平成7年度 後期行事予定

平成7年

- 9月1日(金) 4年次生前期定期試験(1~3年次未修得科目)
- 9月12日(火)
- 9月13日(水) 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 9月14日(木)
- 9月13日(水) 前期定期試験(1・2年次生)
- 9月22日(金)
- 9月13日(水) 前期定期試験(3年次生)
- 9月28日(木)
- 9月16日(火) 薬学総合演習基礎薬学試験(4年次生)
- 9月18日(木)
- 9月26日(火) 前期追試験(4年次生)
- 9月20日(水) 後期授業開始(4年次生)
- 9月25日(月) 後期授業開始(1・2年次生)・前期定期試験(1・2年次生)欠席届提出締切(教務課)正午
- 9月28日(木) 平成8年度特別実習説明会(3年次生)
- 9月29日(金) 後期授業開始(3年次生)・前期定期試験(3年次生)欠席届提出締切(教務課)正午
就職ガイダンス(3年次生)
- 10月13日(金) 後期選択科目・選択必修科目(1~3年次生)履修届提出締切(教務課)
前期再試験(1・2年次生)・前期追試験(3年次生)・特別再試験(4年次生)受験者発表
- 10月21日(土)
- 10月28日(土)
- 10月21日(土) 前期再試験(1・2年次生)
- 11月25日(土)
- 10月23日(月) 平成8年度特別実習配属願提出(教務課)
- 10月26日(木)
- 10月24日(火) 平成8年度(第2次)大学院修士課程入学試験
- 11月9日(木) 第30回大薬祭準備(午後臨時休講)
- 11月10日(金) 第30回大薬祭等(臨時休講)
- 11月13日(月)
- 11月18日(土) 第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 11月20日(月)
- 11月19日(日) 平成8年度推薦入学試験(一般公募制)
- 12月1日(金) 平成8年度推薦入学試験合格者発表
就職ガイダンス(3年次生)
- 12月15日(金) 後期授業終了(1・2年次生)・平成8年度特別実習配属内定(3年次生)
- 12月16日(土) 実験動物慰霊祭
- 12月19日(火) 後期授業終了(4年次生)
- 12月20日(水)
- 12月22日(金) 後期定期試験(1・2年次生)《前半》

12月21日(木) 後期授業終了(3年次生)

12月25日(月) 冬季休業

1月7日(日)

平成8年

- 1月8日(月) 後期定期試験(1・2年次生)《前半》欠席届提出締切(教務課)正午
- 1月8日(月) 後期定期試験(1・2年次生)《後半》
- 1月11日(木)
- 1月8日(月) 後期定期試験(3年次生)
- 1月25日(木)
- 1月8日(月) 特別再試験(4年次生)
- 1月20日(土)
- 1月12日(金) 平成8年度大学入試センター試験実施準備(臨時休講)
後期定期試験(1・2年次生)《後半》欠席届提出締切(教務課)正午
平成8年度大学入試センター試験(一般入學試験C方式)
- 1月13日(土)
- 1月14日(日)
- 1月23日(火) 後期再試験(1・2年次生)受験者発表
就職ガイダンス(3年次生)
- 1月25日(木)
- 1月26日(金) 後期定期試験(3年次生)欠席届提出締切(教務課)正午
- 1月27日(土) 後期追試験(3年次生)受験者発表
- 1月27日(土) 薬学総合演習正規試験(4年次生)
- 1月29日(月)
- 1月27日(土) 後期再試験(1・2年次生)《前半》
- 2月1日(木)
- 1月29日(月)
- 2月1日(木) 後期追試験(3年次生)《前半》
- 2月1日(木) 特別再試験(4年次生)成績発表
- 2月3日(土) 平成8年度一般入學試験G方式
- 2月7日(水) 平成8年度一般入學試験C方式合格者発表
薬学総合演習正規試験(4年次生)成績発表
後期再試験(1・2年次生)《後半》・後期追試験(3年次生)《後半》
- 2月7日(水)
- 2月9日(金)
- 2月9日(金) 平成8年度一般入學試験G方式合格者発表
進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)午後1時
- 2月17日(土)
- 2月26日(月)
- 2月27日(火) 薬学総合演習再試験(4年次生)
- 3月2日(土) 卒業生発表(教務課)午後1時
- 3月7日(木) 薬剤師国家試験模擬試験(4年次生希望者)
- 3月9日(土) 第20回大学院学位記授与式
第43回学部卒業式
- 3月29日(金) 第81回薬剤師国家試験
- 3月30日(土)

※ 行事予定は、大学移転業務の関係により若干変更することもあります。



編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-65

TEL 0723 (32) 1015 (代表)

FAX 0723 (32) 9929